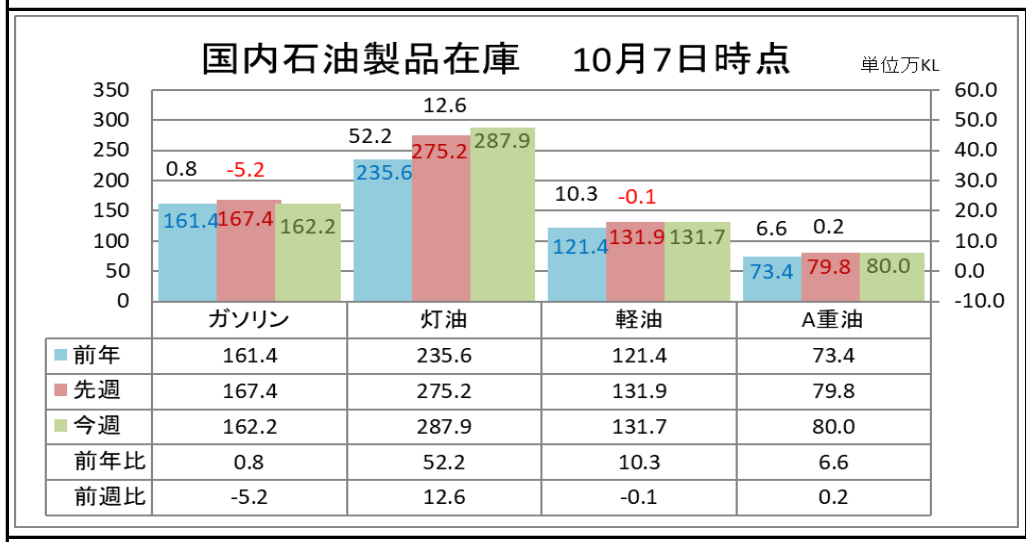
イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/10/13 作成　（株）新出光

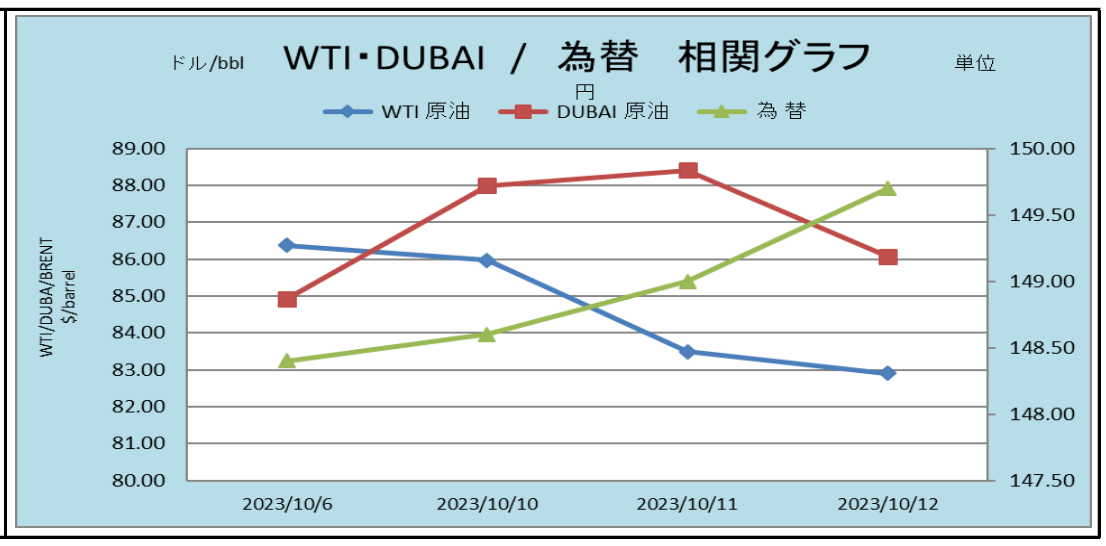
【概況】＜イスラエルとハマスの戦闘・米石油在庫の急増＞

●6日、米労働省がこの日発表した9月の雇用統計によると、非農業部門の就業者数は前月から33万6千人増加と、市場予想（17万人）を大幅に上回った。景気と労働市場の好調さを改めて示す内容だったことから、市場では連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ局面長期化の観測が再燃し原油相場は**82.79**ドルへ反発しました。
●9日、パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスは7日、イスラエルに対する大規模な攻撃を開始。イスラエルも反撃し、双方の戦闘が激化している。産油国が集まる中東情勢の緊迫化でエネルギー供給に影響が及ぶ可能性に懸念が広がり、原油が買い進まれた。原油は前週中に8%超下げていたが、ハマスのイスラエル攻撃で地合いが一転し原油相場は**86.38**ドルへ大幅続伸しました。
●10日、パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスとイスラエルとの戦闘は10日、4日目に入った。関係筋によると、双方の衝突でガザに近いイスラエルの港湾都市アシュケロンとその石油ターミナルが閉鎖されたもよう。ただ、原油輸出が大きく落ち込むような兆候は見られないとして影響は限定的との見方が広がり、ひとまず持ち高を手じまう動きが台頭し相場は**85.97**ドルへ反落しました。
●11日、イスラエルとパレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスの衝突が続く中、主要産油国であるサウジアラビアは10日、ガザと近隣地域の緊迫化した状況下が一段と悪化することを防ぐため、周辺地域や国際的なパートナーと協力していると表明した。これを受けて市場では地政学リスクを意識したエネルギー供給不安観測が幾分後退し、相場は一時82ドル台に迫った。下値では押し目買いが優勢となる場面もあったものの、プラス圏に浮上することはなく相場は**83.49**ドルへ続落しました。
●12日、IAが12日に公表した6日までの1週間の米石油在庫統計によると、原油在庫は前週比1020万バレル増と、積み増し幅は市場予想（ロイター通信調べ）の50万バレル増を大幅に上回った。これを受けて、需給が緩むとの見方が拡大。統計発表後はプラス圏で推移していたものの、午後にかけてじりじりと値を下げる展開となった。加えて、国際エネルギー機関（IEA）は12日に月報を公表。2024年の石油需要の伸びの見通しを従来の日量100万バレルから88万バレルに下方修正した。世界経済の厳しさやエネルギー効率化の改善などが背景にあると分析。相場の下押し要因となり**82.91**ドルへ続落しました。一方、サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相は12日に放映されたロシアのテレビ番組のインタビューで、石油市場において「積極的な姿勢を取り」、市場を安定化させることは必要なことだとの見解を示した。この発言を背景に需給引き締まり観測もくすぶっています。

10月13日	16:00現在	WTI原油	83.99ドル	為替　1ドル	150.94円



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	161.4	235.6	121.4	73.4
先週	167.4	275.2	131.9	79.8
今週	162.2	287.9	131.7	80.0
前年比	0.8	52.2	10.3	6.6
前週比	-5.2	12.6	-0.1	0.2



	次回元売変動予測 10/19～	元売変動予測
ガソリン	→	+0.3～+0.8
灯　油	→	+0.3～+0.8
軽　油	→	+0.3～+0.8
A 重 油	→	+0.3～+0.8
L S A	→	+0.3～+0.8

※原油コスト「±0円～-0.5円」
※激変緩和補助金「-33.7円」 前週比+0.8円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

≪今週≫
今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「▲6.5円」、補助金は、「-34.5円・60%」、都合「▲3.4円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの10日時点の小売価格平均は176.9円となっております。
≪10月14日以降≫
次回の元売り改定は、原油コストは「±0円～▲0.5円」、激変緩和補助金は「-33.7円・60%」の見込みで、都合「0.3～0.8円」の改定の予測となっています。

【次世代エネルギー】＜福岡で実用化へ　日本初!次世代の再生可能エネルギー『浸透圧発電』＞

10月6日、福岡市の高島市長は、日本初となる発電方法で次世代の再生可能エネルギーの実用化を発表しました。
福岡市・高島市長「まさに福岡だからこそ生まれうるチャレンジだと思っています。逆境が生んだ奇跡というか、チャレンジだと言える。」6日、長崎市の機械メーカーとともに会見に臨んだ福岡市の高島市長が、将来の可能性に期待感を示した技術とは、耳慣れない『浸透圧発電』です。
そもそも浸透圧とは塩を通さず水だけを通す膜の両側に、普通の水と水に塩を溶かした塩水を入れると、2つの水は同じ濃さになろうとするため、普通の水が膜を通過し、塩水のほうに移動します。その分、塩水の高さが上がります。この水を持ち上げる力を、『浸透圧』と言います。『浸透圧発電』では、この浸透現象でできた水の流れを利用して、タービンを回し発電します。日本の政令市としては唯一、水源となる一級河川がない福岡市では、2005年から海水を淡水化する施設で飲み水をつくっています。しかし、その過程で通常の海水の2倍以上の濃度の塩水が排水として発生します。この濃い塩水とともに今回の浸透圧発電で使うのが、福岡市の下水処理場で出た処理水です。つまり、本来捨てられていたもの使ってエネルギーを生み出す、日本初の技術です。福岡市によりますと、そのパワーはメガソーラー級で、一般家庭の約300戸分の使用電力をまかなえるということです。
福岡市・高島市長「資源がどこにでもある、24時間稼働できるという中で、効率のいい形でエネルギーを取り出せるように関係する皆さんと一緒になって取り組みたい。」
『浸透圧発電』は、今年度から発電施設の建設が始まり、再来年の稼働開始を予定しています。

［出典］ FBSニュース：　https://www.fbs.co.jp/fbsnews/news9637lv3iy3xabhfu3y.html

© 2023 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.